

調布スマートシティ協議会 2025(令和7)年度第3回幹事会 議 事 要 旨

日時： 2025(令和7)年12月26日(金) 14:00～15:00
会場： 調布市役所5階 市長公室(オンライン併用)
出席団体： 国立大学法人電気通信大学, 特定非営利活動法人調布市地域情報化コンソーシアム,
(敬称略) アフラック生命保険株式会社, 京王電鉄株式会社, 調布市, NTT東日本株式会社,
日本郵便株式会社, 多摩信用金庫, 株式会社東京スタジアム
会議資料：【資料1】お出かけ情報サービス実証事業総括
【資料2】PT活動報告(市民ニーズ等現況分析プロジェクト)
【資料3】令和7年度第2回幹事会 議事要旨(案)

1 開会

2 報告事項

(1) 「お出かけ情報サービス」実証事業の総括について(移動WG)【資料1】

■ 移動WGからの説明

- 12月26日をもってサービス終了する「お出かけ情報サービス」について、実証から得た気付きと調布スマートシティ協議会のMVVに照らした評価を事業総括として報告する。
- 調布市においては、CLICのデータベースがあったことで、ローカルな地域情報を適宜更新しながら掲載することができ、ユーザから一定の満足を得られたと考えている。アンケート調査からも、こうした地域情報のニーズがあることも分かった。本実証を通して、デジタルの活用で情報が一元化されることによる効率化・利便性向上の効果を確認するとともに、デジタルサービスを提供するにあたっては、ユーザの想定やデータの更新、データを活用した効果検証といった要素を検討したうえで、リリース後もユーザ獲得に努める必要があり、新規サービスの提供者となる難しさも実感した。

■ 主な意見

- スマートシティ協議会ではデータの利活用も主たるテーマのひとつとなっているが、移動WGで取り組んだ本実証をとおして、地域情報が一箇所にまとまっていて、必要な時に取り出して使うことが出来る価値を共有することができた。

(2) 市民ニーズ等現況分析プロジェクトチームの活動について【資料2】

■ PTメンバーからの説明

- 調布のまちの現状をWell-Being指標から分析し、今後の協議会活動の検討につなげていくことを目的にPTを設置。これまでミーティングを重ね、スマートシティインスティテュートの南雲代表理事やデジタル庁のアドバイザーである多田氏に助言をいただきながら、今後の協議会活動につながる示唆をアウトプットできるよう活動してきた。本幹事会での報告を以って解散となる。

○ PTは今後の協議会活動につながる示唆出しを役割として活動してきた。PTからの提案に対する具体的な検討やスケジュール感については、来年度以降、今後は協議会の全加盟団体に検討することとして、引き続き議論していきたいと考えている。

■ 主な意見

○ 幹事会のような大勢集まるオフィシャルな会議の場では、組織を代表して意見をすることは難しいと感じることがあった。腹を割って話してみるという提案をしたが、少人数でフランクな議論を行い、自由にアイデアを発想する場があってもよいのではと感じた。

○ PTで活動し、ワークショップの中で、本音で具体的に話せたことが有意義だった。こういった仕組みがあることで、あらたなアイデアや取組の実現に期待が持てると感じた。同時に、ワークショップのやり方には専門的な知識やノウハウが不可欠であることを実感し、ファシリテーターの重要性を認識する機会となった。今後の協議会でどのように仕組みとして作っていくかについては、これから協議会で議論できればと思う。

○ ウェルビーイング指標の理解について、所属団体として、また個人としての調布市に対する認識と指標から見えてくることには合うところも、ギャップもあるが、新しい視点を得るのに有効なひとつの見方であると感じた。一方で、指標そのものは、実証的な立ち位置のものという説明もあり、かつ捉え方が複雑な指標であることは確かである。ただし、指標の性格を理解して扱えば、色々な角度からまちの実態を見られること、これを産学官民で共有し、継続して見ていき、まちのためにどのような取組ができるかといった機運を高められることは、有意義であると感じる。

○ 自分たちの会社が何のために参加しているのか、参加することで会社として実現したいことは何か、自社の中で整理し、それを言語化し、会社を背負って話せるようにすることが、腹を割って話すことの出発点になると感じ、社内で議論したいと思った。

○ 会社の代表としての発言が求められる場面で、個人の想いをなんでも言えるわけではないので、ジレンマを感じることもある。ただし、スマートシティ協議会の参加者同士は、壁を超えて発言できる間柄になっていると思うので、この中では、関係性をうまく生かして、会社の利益に反しない範囲で、担当者としての想いを乗せて議論できるとよいのでは。

○ 第三者の方の存在はとても大事だと思う。先日、調布市主催の「(仮称)調布市スマートシティビジョン策定に向けた学生対象ワークショップ」に参加した際は、ファシリテーターの方がいたので、調布市に関わる一社会人として参加できて大変貴重な機会であった。

○ 調布市として、スマートシティをどう捉えるか、どのように共創を進めていくのかを「(仮称)調布スマートシティビジョン」として策定を進めており、令和8年5月を目途に完成する見込。その動きも踏まえて、あらためてスマートシティ協議会はどのように考え動いていくべきか、来年度大きく検討していく題材になると想定している。議論の進め方も含め、特に幹事団体の皆さんにはご協力いただきながら、一緒に考えたいと思っている。

3 各構成団体からの情報提供・各WGからの報告など

4 事務連絡・閉会